

開けば、そこは別世界

令和8年度埼玉県推奨図書

小学校
5・6年生向け

■埼玉県では、青少年のみなさんに
読んでほしい図書を薦めています■

フレーベル館 文学の森 ふたりのマンガ線



庭野るう/作
フレーベル館

中学受験を予定している成績優秀な鎌磨は、友達付き合いをせず学校で孤立している。一方足が速くて運動が得意で、友達の多い秘。生まれ育つ環境も性格も正反対の鎌磨と秘。なぜかふたりでマンガを描くことに。ひたすら描くマンガの線が、いつしかふたりの心をつないでいく。

月と星座 夜空への誘い



KAGAYA/監修・写真
山下美樹/文
金の星社

月と星座のガイドブック入門。息をのむほど美しい星空の写真と優しい解説で、読者を天然のプラネタリウムへ案内してくれる。満天の星、移り変わる月、神話の世界へとつながる星座たち。初心者にもわかりやすく、ずっと星の世界の入り口を開いてくれる一冊。

ガリレオとアントニ 遠くをみた科学者と近くをみた科学者



メアリー・アールド/文
エイドリア・メサーブ/文
エイドリア・メサーブ/絵
千葉茂樹/訳
光村教育図書

望遠鏡で夜空の彼方を見つめたガリレオと、顕微鏡で一滴の水の中を見つめたアントニ。レンズをとおして誰も見たことがないものを見ようと奮闘した二人の科学者。遠くか、近くか、いずれも自分の興味を探究し、今までの常識を変えていった。

ティーンズ文学館 あの日、ともに見上げた空



黒田季菜子/作
トミイマサコ/絵
Gakken

小学5年生の伊吹は、さまざまな立場の人々と手を取り合う中で、「ありがとう」の本当の意味や人との繋がりのおもしろさに気づいていく、心温まる物語。「多様性」や「誰かと生きることの尊さ」について、考えるきっかけになる一冊。

原発災害は今も それでも「ふるさと」 消える風景 明日へのねがい



豊田直己/著
農山漁村文化協会

福島原発事故によって無人の町になった大熊町や双葉町。その土地で生まれ育った人たちは、「いつかもう一度田畑を耕したい」と切に願っている。原発災害に「ふるさと」を追われた、福島の人々の「現実」と「願い」は、私たちと深くつながっている。

あたりまえの日常が一瞬でうばわれる怖さと、思い出のつまったふるさとが別の姿に変わってしまう悲しさを知りました。15年経った今でも原発事故の痕跡が残っていることや、福島の復興のために土地を提供しなければいけない人がたくさんいたという現実に、胸が痛みました。この本を読んで、福島の本物のいまと「これからの未来」をみなさんにも自分の目で確かめて知ってほしいです。

所沢市立清進小学校

6年生



埼玉県マスコット
「コバトン」

問合せ先：埼玉県 県民生活部 青少年課

✉ a2905-01@pref.saitama.lg.jp

☎ 048-830-2907

図書一覧はこちら

